

## 優秀生産者表彰

今年度の優秀生産者に、耕畜連携型の水稲栽培を実践し、各種コンテストで入賞を重ねて品質への高い評価を得ている伊藤穰さんと、設立から75年を迎え、梨の産地維持やPRに長年尽くしている中石果樹生産組合が選出され、農産物の高品質生産や産地振興への功績が称えられました。

### 令和4年度優秀生産者表彰受賞者(敬称略)

**伊藤 穰** (秋田市雄和)

部門 **水稲**



「受賞を励みに、今後の農業生産に一層力を注いでいきたいと思います」

**中石果樹生産組合** (男鹿市五里合)

部門 **果樹(梨)**



渡部 朋利組合長

「この受賞で組合員一同、今後の栽培に力が入ります。これからもよりよい梨を作ってまいります」



## 「NAMAHA GE AGRI YELL PROJECT」報告

令和4年度からスタートした「NAMAHA GE AGRI YELL PROJECT」において、ネギや枝豆、「サキホコレ」で取り組んだ施策やその成果、来年度の課題などを秋田地区営農センターの石井直樹センター長が報告しました。

## 講演「今年の作柄と今年の稲づくり ～過去に類を見なかった今年の生育～」

JA全農あきた米穀部の児玉徹参与を講師に迎え、令和4年産米の収量低下の要因や、適切な土づくりや水管理などによる気候変動に左右されない稲作についてご講演いただきました。参加者は4年産米の生育経過を振り返りながら、5年産米の1等米比率や収量などの向上への対策を探りました。



## 農政講演会 「需要に応じた米生産における米販売について」

同日、農政講演会が開かれ、JA全農あきた消費地販売事務所の福田芳武所長に、近年拡大している中食・外食市場の動向や当JA産米を産地指定している量販店などを解説していただきました。福田所長は「JA秋田なまはげ産米はしっかりと需要がある米のため、作付け計画を立てるときはJAと相談のうえ、需要に合わせた品目や用途を検討してほしい」と呼び掛けました。